

警告ブザーで知らせるバック事故防止センサー

全車両に導入

山梨総合運輸（山梨県甲斐市）は、トラック専用のバックセンサー「TP-B S01」を全車両50台に導入した。車両後方に四つのセンサーを取り付けることで、後退時に障害物が存在をドライバーに知らせ、看板やシャッターなどとの衝突事故を防止する。運送会社向けの安全製品を専門に取り扱うトライプロ（東京都世田谷区）が販売した。

ドライバーは、LEDによる表示とブザー音で障害物との距離を把握できる。ブザー音は距離で変化するため、モニター部を凝視しなくても距離をつかむことが可能。有効距離は250センチ。

山梨総合運輸で安

バックセンサーを選んだ理由として同部長は、「バックモニターを装着していても、ドライバーが見ていないケースは少なくない」と指摘した上で、「視覚でダメなら聴覚でサポートしようと考えた」と話す。

また、グループ会社の川崎陸送（東京都港区）がバックセンサーを導入し、大きな効果を生んだことも一つの要因だという。「一気に事故をゼロに出来れば良いが、現実的にはなかなか難しい。であれば、まず多いところ、すなわちバックの事故から重点的に

減らしていこうと考えた。価格面とのバランスを意識し、バックセンサーだけで導入できるものを探したところ、トライプロのHPに辿り着いたという。「3か月から半年かけて、1台、3台と慎重にトライアルを繰り返して、効果を確認した上で全車両への導入に踏み切った」。

安全対策について



山梨総合運輸

全対策の陣頭指揮を執る宮本真典業務部長は、「軽微なものも含め、これまで当社で発生した接触事故を分析すると、後退時の事故が44・4%にのぼっていた」とし、「事故撲滅への道として、まずバック時の対策に着目した」と導入の背景について語る。

同部長は、「当社もまだまだ発展途上」と前置きした上で、「全てがセンサーな

どでカバーできるわけではなく、乗務員の教育も必要不可欠。両方が相まって事故ゼロが達成される」と持論を展開。

「今後、当社のモットーである『安全は全てに優先する』を軸とし、安全装置の設置やトラック総合教育センターでの定期的な宿泊研修など、総合的にさらなる対策を進めていく」。

トライプロの高木宏昌社長は、「おかげさまでユーザーからの評判は非常に良い。1台でも多く導入車両を増やし、事故削減に貢献したい。まずは気軽に問い合わせたい」と語る。問い合わせは、電話03（5790）9295番。

宮本部長



「安全は全てに優先する」を軸とし、安全装置の設置やトラック総合教育センターでの定期的な宿泊研修など、総合的にさらなる対策を進めていく」。